

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆめの里入山辺理念」を作り掲示したり、職員会議で地域に貢献する活動について話し合うことで、役割について理解したうえで業務にあたっている。	ゆめの里入山辺は6項目の理念を玄関に掲示し、その理念から、私の仕事プランを作成。4月の目標設定から日々の実践、取り組みをしており、8月と12月の面談で中間の振り返りをして後半の取り組みに繋げ、3月に振り返りをして次年度に更に質の高いケアを目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している。	運営推進会議で地域貢献活動について報告したり、また委員の皆様から地域の要望を聞くことで、地域に溶け込み共に協力しあう関係性づくりをしている。地区行事に参加したり、地区の小学校の児童との交流も行っている。	コロナ禍ではありますが、バス停留所の掃除と草取りをしています。地区の公民館に、認知症予防の掲示をしています。小地区行事で作品展示をし、学校児童との交流も続いており、畑に行く時にご近所の方と挨拶する事もあります。山辺地区は果樹農家も多く、差し入れも利用者様に召し上がって戴いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度はコロナ感染防止のため地域行事は開催されていない。利用者様の作品を地域づくりセンターに展示させていただく事で、認知症の理解・啓発に取り組んでいる。また、施設の前にあるバス停の草刈りを利用者と共にいった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2か月に1回開催し、施設の近況報告や地域からの要望をつかんで日々のサービス向上に努めている。	コロナ禍で、顔を合わせての会議開催は出来ていません。運営推進会議の委員は地域の役職者、行政、利用者家族で構成され、書面開催ではありますが会議録をお届けした折に、ご意見・要望をお聞きする様に務めています。書類で確認致しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターと連携し、今年度は「認知症サポーター養成講座」を開講した。運営推進委員会の委員になって頂き、相談したりアドバイスを頂いている。	地域包括センターは、運営推進会議の委員になって頂いております。昨年7月、認知症サポーター養成講座を地域包括センターと連携し、開催できました。その他にも、いろいろな相談に乗って頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を行い職員会議やユニット会議で気付いたことを話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束のないケアに取り組んでいます。身体拘束についての研修は半年に1回開催、会議録で確認しました。毎月の職員の会議、ユニット会議でも気が付いた事を話し合い、みんなで共有して、拘束のないケアをしています。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	コンプライアンスチェックを年2回行い、結果を集計しチェックがついている項目について話し合うことで、なぜ？どう対処すればいいか等を話し合い、虐待防止に努めている。虐待防止委員会を年4回開催したり、研修に参加することで、啓発活動もしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、ゆめの里入山辺には成年後見制度を利用している利用者様はいません。しかし、成年後見制度の研修を受講することで体制を整えておく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前申し込みがあった時点で、希望者と連絡を取り、近況を把握している。また入所、退所の際は契約、解約について話し合う機会を持ち、不安や疑問、家族の思いなどを聞き取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今年度はコロナウイルスの蔓延により家族会は開催できていない。しかし、来所された時や、担当職員が毎月の様子をお手紙にして郵送したり、ケアプラン更新時にケア会議にご家族様に参加していただく事で、思いを汲み取るよう努めている。	家族会はコロナ禍で開催は出来ておりませんが、写真を添えて、担当より手紙で月に1回から2回、お便りを出しております。また電話や買い物を通じて頂いた時、面会に来て頂いた時にケア会議を合わせ、思いをお聞きし、大きな変化があった時のご意見をお聞きし、ケアプランに反映しています。書類で確認致しました。	同じ利用者様が怪我や骨折で入院もしております。原因に対するの改善策、状況の説明とご報告をしておりますが、その後の、ご家族様のお気持ちを考えると、細心の対応と、ご家族様との信頼関係を更に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から職員の意見を聞く姿勢を持ち、なんでも言い合える関係性を築くよう努めている。職員会議やユニット会議を通じお互い意見を出し合える環境・関係づくりをしている。事務所のドアを開放し管理者に要望や意見を言いやすくなるよう工夫している。	職員会議、ユニット会議は月1回開催しており、その際も職員の意見が出しやすい雰囲気、意見を聞く様になっています。リーダー、施設長は、朝や帰りの顔を合わせる機会に、各ユニットに入り関係づくりをして、また、私のお仕事プランの目標設定、振り返りなど年4回は面談をしています。プラン用紙見本を見せて頂きました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望者には随時面談をしたり、年1回全職員との面談を行うことで、働き方に対する希望や、思いを聞き取りその思いに応えられるよう努めている。リフレッシュ休暇を取り入れ全職員が取得できる体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍の今、外部研修の機会は減っているが、zoomによる研修や、内部研修、勉強会、事例発表会等を行い職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内の同職種で意見交換会や勉強会があり、質の向上を図っている。他グループホームとの交流会を次年度計画し開催に向け進めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時にご本人やご家族に思いや困っていることなどを聞き取り、安心して生活が送れるようにユニットリーダーや計画作成担当者と共に思いを汲み取ったプランの作成に努めている。センター方式シートを活用しニーズの把握をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設に預けたことに対する負い目や不安を感じているご家族がの心が少しでも和らぐように、施設での生活の様子などをこまめに報告することで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様の隣に座り、話をすることで、何気ない会話から思いを汲み取り、今何に困っているのか、ニーズの把握をしている。家族と面談し思いを聞きとることで支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と利用者様が馴染みの関係になれるよう生活の中に溶け込み、同じ時間を共有し、ともに協力し合って生活していける関係が作れるよう努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の性格や仕事、趣味、家族関係、生活歴などを聞いたり、アルバムを持って来ていただいて、家族との絆を大切に、こまめに施設での生活の様子をお伝えすることで、信頼関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	10月20日から地域交流室での面会を再開し、家族と過ごす時間がもてるように配慮している。また、お手紙を下さるご家族もいらっしやるので、返事を書いていただき写真を同封したりして遠くの家族とも関係が途切れないように努めている。	昨年、コロナのレベル3を待って10月20日から、地域交流室で面会を再開し、家族や知り合いと交流しました。その後のレベルが上がり変更、今年の7月までは、窓越し面会にした時期もあります。現在は字が書ける方は家族に手紙を、また担当がお便りに写真を添えて、近況をお知らせしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人一人の生活歴や性格を把握することで良好な人間関係を築けるよう配慮し、居場所を作り孤立せず過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今年度退所された方はいない。今後、契約が終了した場合でも本人の状況を把握し、必要に応じて支援するよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の隣に座りゆっくり話をすることで、何気ない言動の中から思いを汲み取ったり、家族に話を聞いて本人の意向を把握し、カンファレンスで意見を出し合って情報共有している。	大体の方がご入居して7~8年経ち、平均年齢は90歳に、平均介護度2.7となっております。その人らしさ、自立を支援する家庭的なくつろぎの場や、笑顔のある時間を目指し、利用者様の思いをゆっくり、話の中や入浴時などにお聞きしています。受診時にご家族とお会いした時、電話などからお聞きして、ユニット会議やカンファレンスに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人から家族関係や、昔の仕事等について話を聞いたり、家族に聞いている。また、センター方式シートを活用し馴染みの人や生活リズムを把握することで、今までの暮らしが継続して出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人ひとりの生活リズムを把握し尊重することで、持っている能力を発揮し役割ややりがいを持って生活できるよう努めている。今できていることが、半年先や一年先も出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のユニット会議で一人ひとりの状況を検討し支援の方向性を話し合ったり、3か月ごとの計画の見直しでは、家族を交えてケア会議を行い、心身の状況や本人や家族の思いを汲み取った計画作成に努めている。	ご家族を交えたケア会議は、コロナ蔓延レベル3までは出来ていました。掛かり付け医と、受診の送迎の際やケア会議開催前、ユニット会議などで、それぞれの方の状況や気付いた事を話し合い、ご家族にお電話でお話をさせて頂き、状態の変化にすぐ対応できる様な計画作成をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録やケアプラン実施記録に気付きや工夫を記録したり、申し送りノートやユニット会議を通して情報を共有し実践している。また、10月1日からケア記録の電子化を導入し記録の効率化と情報の共有に力を入れ、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	8月1日から管理栄養士を配置した。利用者の状況に合わせ指導をすることで、食事量が増えたり、自力摂取が進んだり効果が出ている。引き続き、訪問歯科やPTによる指導を受けている。11月9日に習字ボランティアを再開した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスの感染蔓延や、選挙との関連で地域行事が中止になっている。しかし、感染が落ち着いてきたことから11月9日に習字教室を再開した。山辺小学校児童との交流も継続して行っている。春にはボランティアさんと畑に野菜の苗を植えたり、マリーゴールドの種まきを行った。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の意向を確認し希望する主治医を受診している。その際身体状況や生活状況を伝えることで医療と連携し体調管理を行っている。精神科への受診は情報提供書を提出し、内科医の往診時には各ユニット1名ずつ職員が担当し主治医へ報告している	ご本人とご家族の希望に応じています。ご家族の協力です。在宅時の主治医の受診が3名、身体状況・生活状況を伝え医療連携しています。協力医の往診が14名、往診時には各ユニットの職員が担当し、主治医に状況を報告しています。その他の医師の往診が1名で、情報を提供しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度業務委託している訪問看護が来所し、一人ひとりの健康状態を観察している。怪我や体調不良があった場合は電話で報告相談し、指示を受け対応している。訪看連絡ノートを活用することで、見てもらいたいことが確実に伝わり、また訪看からの指示も全職員が把握出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の時は医療機関への訪問は出来なかったが、電話や書面で情報を得て本人の状況を把握し、早期退院に繋がるように努めている。退院時には、看護サマリーやリハビリテーションサマリーを受取り、元の生活にスムーズに戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の話し合いを、施設長、計画作成担当者、各ユニットリーダーが家族と話し合い本人や家族の意向を尊重し支援できるよう努めている。主治医や、訪問看護との連携も行い支援に繋げている。	入所時に、施設で出来得ることの説明を詳しくさせて頂いています。利用者様・ご家族の意思を大切に対応させて頂いて、重度化した場合の話し合いは、施設長・計画作成担当者・ユニットリーダー、ご家族で話し合い、主治医・訪看と連携し、支援に繋げています。終末期は、面会は随時出来る様に計りました。昨年は看取りはありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時のマニュアルを訪問看護やリスク管理室と共に整備し、各ユニットに配備し内容を周知させることで全職員が対応できるようにしたり、内部研修を行い学習している。		
35	(13)	○火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施しているが、コロナウイルスの感染予防のため、利用者や地域住民の参加は出来ていない。訓練は災害時と火災を想定して行った。避難経路の確認や消火器の設置場所を周知させたり、非常食を3日分確保している。	消防署立ち合いの訓練は2回計画され、うち1回は、コロナ禍の状況もあり未実施です。書類で確認致しました。入居者様が平均90歳と高齢であることで、特に夜間想定に参加シミュレーションは出来難い。運営推進委員や地域住民、警察などが立ち会っての訓練も、コロナ禍でお願い出来難い状況があります。	コロナ禍で実施しにくい状況はあり、入居者様が超高齢であることも加味しました。やはり、命に係わる避難訓練なので、何かあった時に行動できる様に訓練は欠かせないものです。施設前の駐車場、公民館など、季節に合わせた避難方法も工夫し、2回の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格、生活歴、認知症状、精神状態を把握し、人格を尊重した上で利用者それぞれに合わせた声掛けを行っている	倫理法令順守、プライバシーの保護事例発表、県の人権侵害・人権擁護研修などに全職員が参加。コロナ禍で、テキスト受講もあります。会議録や受講の記録を確認しました。ひも解きシートなど、利用者様の生活歴、認知症や精神状態を把握し、記録は電子化して共有しています。トイレやパッド交換などの声掛けも、それぞれ周囲への配慮をして、基本は苗字で、希望に応じてお呼びしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望やその人のリズムに合わせた生活が送れるよう声掛けを行い、自己決定を促し尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりペースが違うのでその方のペースに合わせ、食事や入浴、余暇活動など希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時や入浴時、自ら服装の選択が出来るよう支援し、いくつになってもおしゃれする楽しさを感じていただけるよう配慮している。選択、決定が出来ない利用者には、職員が季節に合った服装を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日にはご本人に食べたいものを聞いて皆でお祝いしている。行事食など手のかかるメニューの時は、利用者により方を教えて頂いたり、一緒に調理していただき和気あいあいと家庭的な環境の中で食事を楽しんでいる。食事の片付けも、利用者の出来ることは、手伝って頂いている。毎年干し柿づくりが、恒例行事となっている。	食事を楽しんで頂くメニューを考え、手作りの食事を提供しています。行事食や、お誕生日のメニューもご希望を聞いて、一緒に手作りするなど工夫して、懐かしい干し柿づくりも毎年行っています。畑で夏野菜やジャガイモなどを収穫しており、薬味なども調達しています。また地元の野菜などを中心に食材を切ったり、食器を拭くなど、その方が出来るお手伝いをして頂いています。以前は、直ぐ傍の農協のスーパーへ買い物に行く事もありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	排泄・水分チェック表を用い一人ひとりの水分摂取量を把握し、脱水症状にならないよう努めており、情報の共有もしている。8月1日から管理栄養士を配置し、栄養面や口腔機能維持についても一人ひとりに合わせた食事形態を提供し、機能維持が出来るよう支援している。		
42		○口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員が声掛けし口腔ケアを実施している。口腔内を観察したり、ご本人から違和感の訴えがあった時は、協力歯科医に往診して頂き、口腔内の清潔、健康維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したり、尿意や便意を訴えられない方のソワソワする様子が見られた時は、トイレ誘導して、トイレでの排泄が来ている。自立に向けた支援を行っている、オムツの使用量を減らすことが来ている。	自立支援の中でも最も大切な排泄支援は、排泄水分チェックシートで把握して、お一人ずつの排泄パターンに添って気を配っています。ご飯の前に歌ったり体操や足踏みなど、またほうじ茶ゼリー、ヤクルト、ヨーグルトなどで排泄を整えて、促す工夫をしています。排泄シートは見せて頂きました。季節を選んで散歩など、数人ずつ担当して、汚す前を見計らった支援でオムツ使用の節減をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄水分チェック表で排便状況の管理を行い、便秘傾向の利用者には緩下剤等内服して頂いたり、朝食にヨーグルトを提供したり、水分摂取を促して、自然排便につながるよう支援している。体を動かすことも便秘予防につながると理解し促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴の日は声掛けし、一緒に衣類の用意を行っている。入浴中は危険のないように配慮し、楽しい時間を過ごしていただけるよう会話しながら心地よい時間が過ごせるように努めている。拒否があった時は翌日にするなど臨機応変に対応している。	気持ち良く入浴できる様に、事前の準備からお声掛けし一緒に着替えを選び、着替えの際の室内温度の調整をしています。担当が入浴時にお話をしながら、ゆったりとした時間を楽しんで頂く様にしています。お一人だけ、身体状態から自立した入浴は出来ないため、シャワー浴になっている方も居られます。ご家族に了解を頂き、浴室内の温度管理をして、出来るだけ気持ち良いシャワー浴で清潔を保てるよう工夫しています。	前回調査でも課題となっておりましたので、訪問介護での、動けない方への入浴は、しっかりした生地の大判バスタオルなどを使用して、2人体制で安全確保した入浴方法などを参考にされることを期待いたします。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や身体状況を捉えたうえで、それぞれのタイミングで自室に戻られ就寝して頂いている。気持ちよく眠られるように居室内の空調管理にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内服の目的は理解しているが、副作用までは理解が出来ていない。お薬についての説明書が出されているので、今後は意識して把握していくようにしたい。内服チェック表を用い飲み忘れや誤薬がないようダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意なことや好きなことを活かし行っていた事で、達成した時の表情は満足に満ち溢れている。職員が感謝の言葉を伝えると、「またやってあげるね」と生きがいや、やりがいにも通じ活き活きとした生活を送って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換や下肢筋力の低下を防ぐためにも散歩に出かける回数を増やしたいが、少し歩いただけでも足取りが悪くなってしまいう利用者が増えて来ている。またコロナウイルスの感染予防のため外出の機会が減っていることは否めない。しかし、ドライブに行ったり玄関先の草花を見に行くなどして、外出する機会が増えるよう努めている。	入居者様の高齢化に伴い、徒歩での歩行が厳しくなっており、コロナ禍もあって、以前は出来ていた近所への買い物などは出来なくなっています。施設前のプランターの花への水遣りや、畑の収穫など安全に気を配り行っています。気分転換や下肢筋力の低下防止にも、出来るだけ散歩をしたいと考えます。車椅子対応の車で花見や、街中へのドライブなど、出掛ける機会を維持し、増える様に工夫をしたいと思っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人の金銭保管はしていない。コロナウイルスの感染予防のため、今年度買い物や外食の支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人から電話をすることは無いが、ご家族から電話があった時、かわってほしいと希望があればお話をする方がいる。また遠方のご家族から手紙を頂いた時は、本人に返事を書いていただき、最近撮った写真を同封してやりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって居心地のいい空間が作れるように、ホールの中には音や光、温度などにも配慮し気持ち良く過ごして頂けるよう努めている。また、季節感が出るように花や手作りの作品を展示するなどして工夫している。	緑豊かな環境があり、山が望めて、遠くに薄川が流れています。毎日の生活の中で季節の花を飾り、七夕の笹飾りなど、馴染みの行事にちなんで、皆様が共有空間を過ごし易い空間にしています。手作り作品もやりたい人が、したいことをすれば良いので、その日の気分や気持ちを大切に過ごして頂ける様にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでの席は、それぞれ気の合った利用者同士座れるように配慮し、制限はしていない。思い思いに過ごして頂けるようにソファも置いて、好きな場所に座っていただく事によって、自分の居場所が作れるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔から使い慣れている物や好みの物を置いたり、写真を飾ったりしている。棚には時計やティッシュ、櫛やハンドクリームなどを置いている。習字教室で書いた作品や、誕生日の色紙も飾って頂き、自分らしく暮らしやすい居室になるよう工夫している。	それぞれの方の居室は、全部の部屋に窓があり、風景が望めます。適度な広さがあり、以前から使い慣れている道具や、ご家族の写真、手作りの手芸品などが飾られています。洗面台には整容出来る櫛やクリームなどが置かれています。お部屋のドアには、習字で、ご自分の名前が達筆に書かれて貼られていました。ご家族から洋服などの差し入れもあり、自分らしく暮らせる明るい部屋でした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの能力を活かせるよう生活空間は工夫されており、職員は少しの支援で本人の出来ることを発揮出来る関りを行っている。残存機能を維持する支援を行うことで、自分らしい暮らしが継続出来るよう工夫している。		